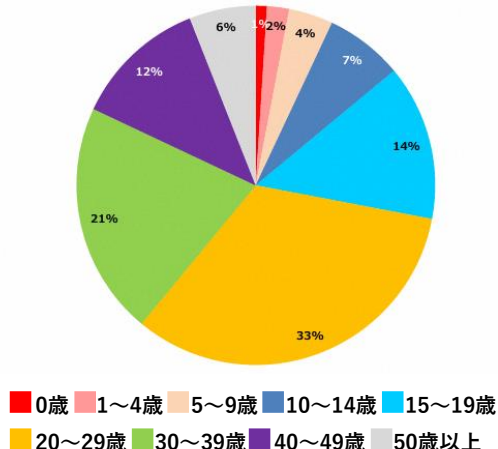
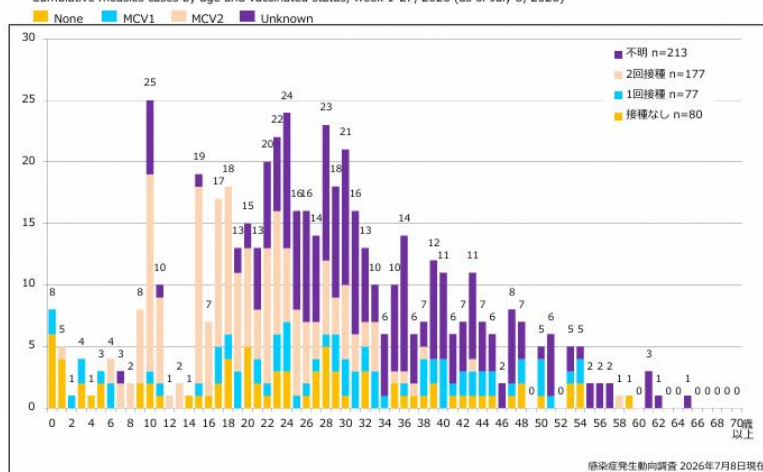


令和8年感染症発生状況

県内（上期：1～6月）では、麻しんが7年ぶりに発生。結核などでも輸入症例が増加
世界的には、コンゴが17回目のエボラ出血熱流行宣言、WHOが公衆衛生上の緊急事態を宣言

1. 麻しんが流行 輸入症例を端緒に、抗体が低い年代中心に感染

6. 年齢別接種歴別麻しん累積報告数 2026年 第1～27週 (n=547)
Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-27, 2026 (as of July 8, 2026)



2. エボラ出血熱が流行

コンゴ流行、ウガンダ渡航者死亡例



< 麻しんへの対応、麻しんを含む輸入症例増加への対応 >

- ① 医師会等関係機関との情報共有及び県民へのSNS等による注意喚起・普及啓発
- ② 麻しん発生時における厚生センター・衛生研究所による迅速な積極的疫学調査・検査体制を確保
- ③ 麻しん含有ワクチン任意予防接種実施医療機関リストの公表及び予防接種の推進
- ④ 旅券センターと連携した海外渡航者向け注意喚起の実施（写真のとおり）
- ⑤ 入国前結核スクリーニングの強化（各国での予防接種、日本渡航前の検診）を国へ継続要望



< エボラ出血熱等の1類感染症への対応 >

- ① 第一種感染症指定医療機関、警察、消防、検疫所、県、市との連携による初動対応体制の確認、整備
- ② 新型インフルエンザ等対策実地訓練を通じ、一類感染症も想定した関係機関の対応・連携体制の確認を実施予定